

学術雑誌環境(「外国雑誌」)に関する大学図書館 の取り組み

土屋俊

(国立大学図書館協議会、千葉大学)

0. 国立大学における雑誌契約の原則

- 一括契約(各大学図書館が、大学全体を取りまとめて出版社(代理店、取次店)と契約)
- 前払い(物品の納品が完了しないでも支払うことができる。電子ジャーナルの使用許諾(役務契約)についても同様としてある)
- 購入タイトルの決定は、(ほとんどの大学でバラバラに)教員が主体(「予約購読(停止)希望調査」等によって集約。この段階では価格、外貨状況は知らされていないことが多い。)

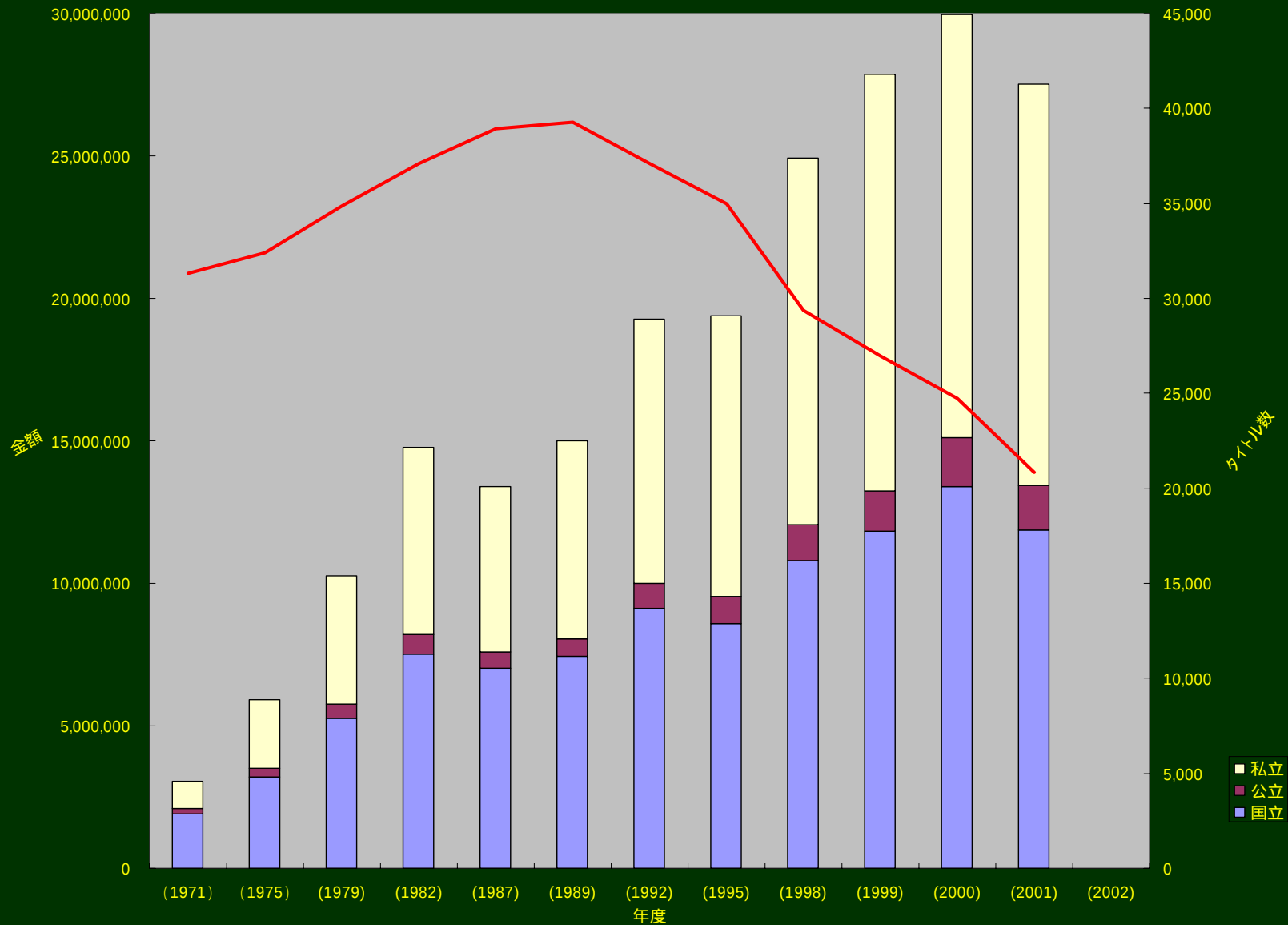
1. 1990年代の状況と各大学における対応

- 各大学におけるタイトル減の「予感」(タイトル減の真実は1999年に発覚)
- 欧米におけるSerials Crisisに関する知識の不足: 図書館側における出版流通体制への無関心(「代理店」依存体質のつけ)
- 比較的潤沢になった研究資金(科学技術基本計画、大学院重点化等)
- 「全体を見る」パターナリズムの減衰(NACSIS(1986年設立)の皮肉?)
- 図書館を襲い、かつ利した電子化の嵐(NACSIS-CAT、2次文献情報CD-ROMサーバ、リテラシー教育などなど)

単位:千円

日本国内図書館の外国雑誌購入費および受入れタイトル数

但し1982年度までは和雑誌も含む



2. 世紀転換期における(出版側での)電子ジャーナルの急速な普及と立ち遅れた対応

- 1998年くらいまでは、みな、様子見模様
- 北米における(電子化とは独立の)対応(1990年代を通して)とその帰結としてのSPARC(1998)
- Elsevierの積極攻勢(SD21プログラムの提案、2000年からの円価格等)
- 円価格問題への対応(国立大学、私立大学等で異なった)
- サイト・ライセンシングがよくわからない、価格モデルがよくわからない(もっとも誰もわからなかった)

3. 国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース

- 2002年からの契約を念頭において2000年9月設立
- 出版社との直接交渉を原則(当初は、主要5社ターゲット)
- 契約条件の改善(1大学1サイト原則、ILL、学外者利用、プライス・キャップ等)
- 利用環境の改善(ミラー・アーカイブ設置、利用者講習担当者研修、統計情報の正確化(COUNTER対応)等)
- 予約購読意思決定システムの改善、「集金」システムの確立の推進(「全学予算化」等)
- ただし、契約は大学ごと(条件は国立大学全体を一つのコンソーシアムとみなさせる)
- 相当程度の成果:「2002年は(日本の国立大学の)電子ジャーナル元年」
- 現在20数社と交渉

4. 限界とSPARC

- 2002年以降値上げがとまっているわけではない(「2桁値上げ」の会社もまだ多い)
- 全学予算化には伸び率を止める副作用(法人化を前にした萎縮との相乗逆効果)

手詰まり

- 2001年8月(9/11直前)、米国SPARCからの呼びかけ(SPARC Europe準備中、日本・アジアが今後の課題、独自のシステムの追及)
- 2001年10月理事会で紹介、原則賛成
- 文部科学省情報科学技術委員会「根岸ワーキンググループ」における検討、報告書への反映

日本の学会誌の状況について(図書館として)初めて認識

5. 大学図書館はこれから何をしようとしているか？

A. 学術出版の状況に関する情報共有の推進

- SPARCの目的は、「研究者自身による研究情報流通のコントロール」
- 商業出版社を中心とする体制は、それを不可能にし、それによって大学の研究機能に危機をもたらしている
- 図書館はその最前面に立っており、状況を認識している(外国出版社との付き合いもある)
- この危機的状況をキャンパス内で教員・研究者と共有し、協力して大学の研究機能を維持するために努力したい
- (予約購読であれ、論文投稿であれ)研究者が意思決定しないといけないのだから、この状況を理解いただくための努力がまず最初

パンフレット、ワークショップ、講演会、ウェブページを活用した情報共有推進活動

5. 大学図書館はこれから何をしようとしているか？

B. 学術出版の状況を改善しようとする学会等への協力

- 日本発の電子ジャーナルのコンソーシアム交渉・契約
- 共同で研究(たとえば、Open AccessやBioMed Central方式等について)
- 国際連携における信用保証(SPARCは図書館のイニシャティブ)

C. 大学からの情報発信の推進

- 機関レポジトリの創設(大学における(特許以外の)知財管理への取り組み、出版契約におけるNon-exclusive licensingの推進等。Cf. DSpace, FEDORA, CDL等)
- サブジェクトポータル共同構築 (NIIとの連携を含め)

参考になる前例

- Project EUCLID
 - 数学雑誌プラットフォーム
 - コーネル大学図書館の事業
- BioOne
 - 生物学雑誌プラットフォーム
 - 1年半でbreak even
- “Organic Letters”
 - ACSとの協力
 - 2年で実績